

野生植物研究所だより

● 穂波の郷クリニック 『元気の森』 の庭園設計 ●



木造りの「穂波の郷クリニック」

さる7月7日、パレット大崎の西側に広がる穂波の郷の一角に「穂波の郷クリニック」がオープンしました。穂波の郷クリニックは、古川市立病院の副院長を6月末で退職された三浦正悦先生が開業された診療所です。三浦先生は、特に末期癌など緩和ケア期の患者さんに対して在宅ホスピスケアの訪問診療に取り組んでこられた方です。クリニックの建物は、ヒノキやケヤキ、スギなどを使った木造建築となっており、患者さんや介護者の安らぎの場であってほしいとの思いが込められています。さかのぼること、6月3日、ソーシャルワーカーの大石晴美さんが研究所を訪ねてこられ、「穂波の郷クリニック」に込められた関係者の思いと共に、クリニックの庭園づくりのお話を伺いました。

患者さんや介護者家族の方、職員、広くは地域の方も一緒に“元気を取り戻せる場”となるよう、庭園を「元気の森」と名付けたいと・・・ぜひ、「元気の森」の庭園設計に協力してほしいとの依頼をされました。所長は「元気の森」のお話に大変感動しました。資金不足を考慮して“雑木林の森”であればなんとかなると考え、その場で庭園設計のお話を引き受けることにしました。

小鳥のさえずりに耳を傾けたり、チョウやトンボが舞う様子を眺めたり、庭を巡って観賞したり
みんなで種を撒いたり、草取りをしながら花を育てたり・・・

心を和ませてくれる庭園、みんなが元気を取り戻せる庭園、木造りのクリニックにもマッチした温もりを感じられる庭園

【いよいよ「元気の森」づくり】 さっそく庭園となる現場に出向き、周囲の環境を把握すると共に庭園となる裸地の計測をし、庭園の構想に入りました。庭園になる場所はクリニックの建物の南側に位置し、庭の西側と南側には道路があります。また、東側に位置する所は薬局へ行くための通路になっています。出来上がった庭園の構想をクリニックへ出向いて説明しました。大変喜んでくださり了解がとれたので、その日の夕方、さっそく樹木医師である佐々木正承さんを訪ね、造園を依頼しました。

【樹木の紹介】 庭園の西側半分は小鳥がきて実をついばんだり、四季折々の花や紅葉などが楽しめる落葉樹を主体とした様々な樹木43種類65本を植え、森となるよう考えました。カツラ、ナナカマド、ブナ、コナラ、マンサク、サラサドウタン、コマユミ、ツリバナ、サンショウ、アキグミ、エゴノキ、ヤマウグイスカグラ、ヤマツツジ、レンゲツツジ、カスミザクラ、エドヒガン、ガマズミ、ミヤマガマズミ、ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、メグスリノキ、ヤマボウシ、ナツハゼなどです。これらの木は全て落葉樹で春の芽だしから秋の紅葉までそれぞれの花をつけ、実を結びます。冬には全て葉が落ちてしまいますので、冬でも緑の葉が見られる樹木も何種類か植えることにしました。ヤブツバキ、モミ、アスナロ、イヌツゲ、ユズリハ、シラカシなどです。



施工前の庭 (6月4日撮影)



現在の庭 (7月14日撮影)

【下草には野生の草花】 樹木の下には、30種以上の野生の草花を植えその草花も楽しめるようにと考えました。シラネアオイ、ラショウモンカズラ、エビネ、チゴユリ、マイズルソウ、イカリソウ、ホタルブクロ、ショウジョウバカマ、カワラナデシコ、トモエソウ、タガネソウなどです。

【ピオトープの植物】 薬局へ行く通路側には花壇を、そして、森と花壇の間には、水草を植え、メダカやフナ、ドジョウなどが住み、さまざまなトンボなどがくるピオトープをつくる構想をたてました。ミズバショウ、ミツガシワ、ヒメカユウ、ショウブ、フトイ、スイレン、アサザなどを植える予定にしました。

森の中の通路は、車椅子でもまわられるようになっていきます。庭園には全ての樹木が植え終わり、下草は予定の半分、ピオトープにも水草を植え終わりました。現在、遊歩道の整備などをしていますが、間も無く全て終了し、「元気の森」が誕生します。年を増すごとに素晴らしい、見応えのある庭園となっていくことでしょう。この庭園が本当の「元気の森」になればいいなと願わずにはられません。今後も、この「元気の森」を通し、三浦先生はじめ、職員の皆さん、在宅医療ボランティアひとあかりの会の皆さんとは、深く関わっていくことになると思っております。

ぜひ、機会がありましたら、穂波の郷クリニックの「元気の森」へ足をお運びください。「元気の森」で、心身を癒し、生への活力「元気」を取り戻していただければ幸いです。皆さんの「元気の森」として、未永く愛される庭園に育ってほしいと願っております。



交流スペースからの眺め